Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

提供年月日:令和5年(2023年)5月25日
所　属　名:滋賀県立美術館
担当者名:小松(広報担当)、芦高
連　絡　先:077-543-2113
E-mail:museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館　企画展

「今森光彦　里山 水の匂いのするところ」

２０２３年7月8日（土）～9月１８日（月・祝）

① 《船着き場の朝》2000 年

【見どころ】

＊大津市出身の写真家・今森光彦氏が長年にわたり撮り続けてきた、滋賀の里山をとらえた作品から、「水の匂い」をキーワードに選りすぐった９２点を一堂に展示。

＊小さな生き物の生態から人間の営みに至るまで、それら全てを含む大きな（広い）自然観（自然の在り方）を里山を通して表現。

＊９２点中９１点を、この展覧会のために新たにプリント。

＊滋賀県立美術館では初となる今森光彦氏の展覧会。

＊館内の「ラボ」で、今森光彦氏の里山の動植物をテーマとした切り絵作品を展示。

＊関連企画として、作家本人をむかえて実施する「スペシャルギャラリーツアー」や子供向けの「切り絵ワークショップ　里山を作ろう！」、株式会社たねやの協力による寄せ植え作りのワークショップを開催予定。

1954年、滋賀県大津市に生まれ、第20回木村伊兵衛写真賞、第28回土門拳賞(「拳」の字は正しくは旧字体)、地域文化功労者文部科学大臣表彰をはじめ、数々の賞を受賞している写真家・今森光彦の写真展を開催します。今森は、学生の頃から世界各国を訪問し、熱帯雨林から砂漠まで、その自然に生きる生物とそれらを取り巻く環境を撮影してきました。1992年、写真雑誌『マザー・ネイチャーズ』夏号に「里山物語」を発表。以後、滋賀・仰木地区の琵琶湖を望む田園風景の中にアトリエを構え、自然と人の関わりを里山という概念を通して撮影し続けています。本展では、今森が長年撮り続けてきた滋賀の里山を通して、水の循環に着目しました。撮影の中で出会った水の匂いに、自身の原風景を思い出したと言う今森は、里山における水の循環を、生命の循環とともに写しとっています。水は奥山から人々の住処を流れ、琵琶湖へと戻り、大気を通して再び大地へと還ってゆきます。里山に宿る多様な生態系と、その土壌となっている豊かな環境は、私たちの忘れてしまった原風景を、水の匂いとともに思い出させてくれるかもしれません。

２．開催概要

展覧会名:企画展「今森光彦　里山　水の匂いのするところ」
会　　期:2023年7月8日(土)～9月18日(月・祝)
休 館 日:毎週月曜日(ただし祝日の場合には開館し、翌日火曜日休館)
開場時間:9:30～17:00(入場は 16:30 まで)
会　　場:滋賀県立美術館　展示室3、ラボ
観 覧 料:一般　1,200円(1,000円)
　　高校生・大学生　800円(600円)
　　小学生・中学生　600円(450円)
　　※(　)内は20名以上の団体料金
　　※企画展のチケットで展示室1・2で同時開催している常設展も無料で観覧可
　　※未就学児は無料
　　※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料
主　　催:滋賀県立美術館
協　　力:有限会社オーレリアンガーデン、株式会社クレヴィス、株式会社たねや
協　　賛:株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン
後　　援:エフエム京都
企　　画:芦髙郁子(滋賀県立美術館　学芸員)
会場グラフィックデザイン:長岡綾子(長岡デザイン)

３．今森光彦について

©オーレリアンガーデン

1954年、滋賀県大津市に生まれ、第20回木村伊兵衛写真賞、第28回土門拳賞(「拳」の字は正しくは旧字体)、地域文化功労者文部科学大臣表彰をはじめ、数々の賞を受賞している。学生の頃から世界各国を訪問し、熱帯雨林から砂漠まで、その自然に生きる生物とそれらを取り巻く環境を撮影。1992年、写真雑誌『マザー・ネイチャーズ』夏号に「里山物語」を発表。以後、

滋賀・仰木地区の琵琶湖を望む田園風景の中にアトリエを構え、自然と人の関わりを里山という概念を通して撮影し続けている。

写真集『里山物語』(新潮社)、『湖辺　生命の水系』(世界文化社)、『世界昆虫記』(福音館書店)、写真絵本『やまおやじ』(小学館)、『おじいちゃんは水のにおいがした』(偕成社)、切り絵作品『ちょう』(アリス館)、『切り紙昆虫館』(童心社)など、数多くの著書がある。

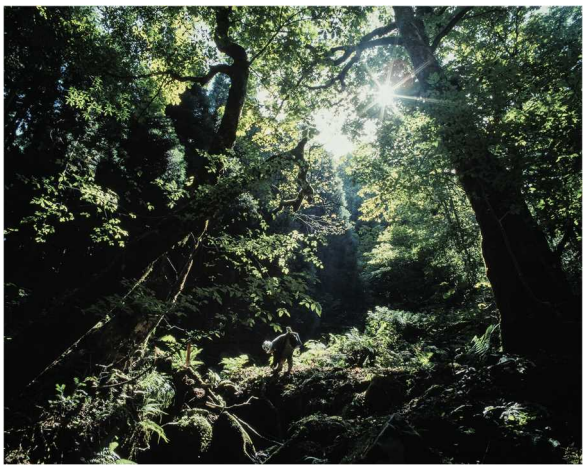
その活動は、作品の発表や執筆活動にとどまらず、一般の人々に里山の自然を体験してもらう「今森光彦さんと里山を歩こう」や「今森光彦・里山昆虫教室」の開催など、実践的なイベントにも取り組む。近年は、環境農家、ガーデナー、里山環境プロデューサーとしても活動している。

４．章構成について

第１章　はじまりの場所

自然写真は、ネイチャーフォトとも訳されます。しかし、今森光彦にとっての自然は、西洋的なネイチャーではなく「自然(じねん)」なのだといいます。「自然(じねん)」は、元々は仏教用語。今森は動物も生き物も人間も同じ立場だという考え方として捉えています。奥山で撮影された《トチの実を拾う人》に見られるように、今森の撮影する里山の写真も、この「自然(じねん)」の概念に根ざしたものです。

さて、水の旅のはじまりの地、水源地でもある原生の森の地表からにじみでる水は、多くの生命を養いながら、沢となり、渓流となります。産卵のために渓流を遡上するビワマス、渓谷の落ち葉の中に佇むカモシカの骨、お盆の時期に先祖を供養するためにおこなわれる「おしょらいさん」など、水と土の匂いのなかに生命の循環があるのです。



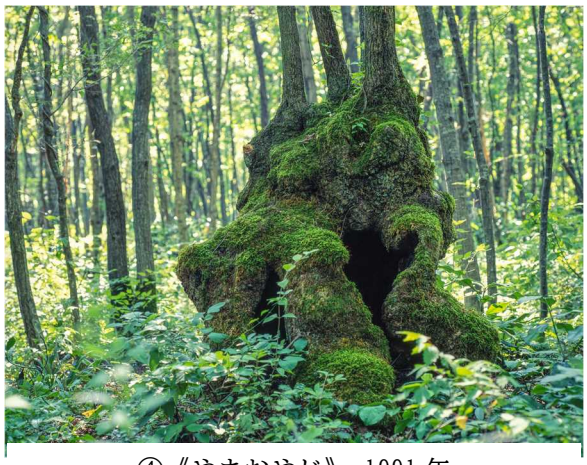
②《トチの実を拾う人》 2002 年

③《おしょらいさん》 1998 年

２章　萌木の国

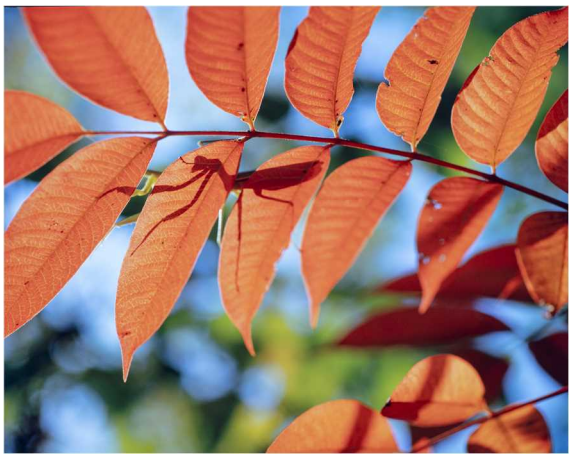
今森光彦は、クヌギの古木「やまおやじ」を守るべく、1997年に滋賀県マキノ町(現・高島市)の雑木林を入手しました。空撮された雑木林は、その広大さをあらわしています。切っても切っても萌えぐ。この雑木林を今森は「萌木の国」と名付けました。

雑木林は人の手が入らないと成り立ちません。雑木林を管理しながら、今森は四季の風景やそこに生きる生き物の写真を撮影しました。植物や昆虫の写真



④《やまおやじ》 1991 年

は、彼らのポートレイトであり、生命の持つ力強さや豊かさを私たちに教えてくれます。



⑤《ヤマウルシの紅葉とオオカマキリの影》 1985 年

第３章　光の田園

小さい頃から熱帯雨林に憧れていた今森光彦は、19歳の頃に東南アジアを旅します。インドネシア・スラウェシ島とバリ島のアグン山を囲む棚田の神々しい風景に感動し、帰国後、生まれ故郷である滋賀に同じ風景を見出しました。

比叡山の東麓に位置する大津市仰木の棚田は、今森が「里山」をテーマとするきっかけの地でもあります。同地にアトリエを構え、はじめは棚田に生きる生き物を主に撮影していた今森ですが、次第に生き物の住む環境を意識し始めました。里山としてその環境を撮影し、1992年、雑誌『マザー・ネイチャーズ』夏号に「里山物語」を発表。後継誌『SINRA』に受け継がれたこの連載で、木村伊兵衛写真賞を受賞し、写真集『里山物語』に繋がりました。

⑦《朝焼けの棚田》 1986 年

⑥《比叡山の裾野に広がる田植えの頃の棚田》 1989 年

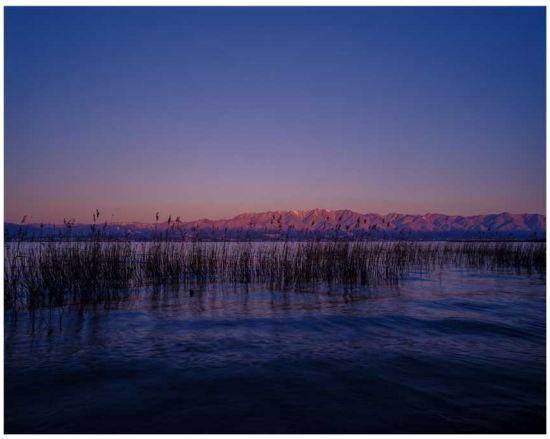
⑧《野菜を洗う人》1999 年

第４章　湖辺の暮らし

二人の漁師との出会いによって、今森光彦は改めて琵琶湖に目を向けます。漁師のうちの一人である福沢常一さんから漂ってきた匂いに強い郷愁を感じた今森は、「藍（あお）い宇宙」ともいうべき、湖辺のイメージが頭の中を駆け巡ったと言います。今森はまた、もう一人の漁師である田中三五郎さんが暮らす、高島市新旭町針江地区の「かばた」での思い出を「水の匂い」と共に語っています。「かばた」は、集落の中を巡る水路やその水を生活用水に利用したシステムのこ

と。「水の匂い」とは、人間と生き物の営みが複雑に混ざり合った、里山を象徴する匂いなのです。

⑨《かばたの井戸》1998 年



⑩《朝焼けの比良山》 1997 年

第５章　くゆるヨシ原

近江八幡の水郷には、美しいヨシ原の風景が広がっています。今森は、晩秋の深いセピア色に染まるヨシ原の眺めに、はるか昔の琵琶湖を思うのだと言います。

冬、ヨシ刈りを経て現れる、3メートルほどの高さのあるヨシでつくられた円錐形の物体は「丸立て」と呼ばれ、ユーモラスな形をしています。ヨシ刈りの後におこなわれるヨシ焼きは早春の風物詩。跡地には2週間もするといろいろな植物が芽吹きだします。ヨシ焼きをおこなう土地は、今では少なくなってしまいましたが、人の営みと生命の循環が組み合わさった風景でもあります。

⑪《冬のヨシ原》 1996 年

第６章　還るところ

今森の主な撮影地は琵琶湖の西側、すなわち湖西です。湖西は琵琶湖と比良山系に囲まれた自然豊かな土地。そのため奥山や棚田、雑木林などの奥地を撮影していても、その土地の何処かでは琵琶湖を見ることができます。巨大な湖は、田んぼや川とつながり、生物の命の流れと重なり合っています。

山々から下った水の流れは、湖で終わるわけではありません。琵琶湖では、冬から春にかけて、琵琶湖の深呼吸という現象が起こります。寒暖差によって、表面の水と底の水が入れ替わるのです。つまり、琵琶湖という広大な水の器のなかでも、循環が起こっているわけです。そして水は、湖の表面から時間をかけて、大気へと昇り、山々へ還ってゆきます。

⑫《オナガガモの群れ》 2002 年

⑬《光る湖面》 2001 年

５．関連イベント

◆今森光彦　スペシャルギャラリーツアー　※事前申込制（6/15 申込開始予定）／抽選

日　時：2023年7月16日（日）、9月17日（日）　両日とも 14 時から（約 90 分）　※要観覧料
　　2023年7月16日（日）　17時から（約90分）【滋賀県美メンバーズ限定】

会　場：滋賀県立美術館　展示室3

定　員：各回20名（滋賀県美メンバーズ限定は30名）

内　容：作家・今森光彦氏本人が会場をご案内するスペシャルギャラリーツアーを開催します。

◆アートにどぼん！たいけんびじゅつかん拡大版

「切り絵ワークショップ　里山を作ろう！」　※事前申込制（6/15 申込開始予定）／抽選

日　時：2023年8月15日（火）　午前（10時から12時）・午後（13時30分から15時30分）

会　場：滋賀県立美術館　ワークショップルーム、展示室3

対　象：子ども（幼児～中学生）とその保護者

定　員：各回15名（子ども）とその保護者

参加費：無料　※保護者の方は観覧料（団体料金）が必要

内　容：切り絵作家としても活躍する今森光彦氏をむかえ、子どもとその保護者を対象に、ワークショップとギャラリーツアーを開催します。

◆株式会社たねや協力ワークショップ

「ラ　コリーナで小さな里山を作ろう！」　※事前申込制（6/15 申込開始予定）／抽選

日　時：2023年7月23日（日）
　　午前（9時30分から11時30分）・午後（13時30分から15時30分）

会　場：ラ　コリーナ近江八幡

定　員：各回15名

参加費：無料

【ラ　コリーナ近江八幡からのコメント】

ラ　コリーナ近江八幡のコンセプトは「自然に学ぶ」。

お菓子や自然を楽しむ景色が広がるラ　コリーナには、森への小道や小川、田んぼがあり、そこには生き物の集まるたくさんの草花が育っています。今回のワークショップはラ　コリーナの棚田の土手で草花を観察し、ラ　コリーナにある草花の寄せ植えを作り土手の風景をお持ち帰りいただきます。普段何気なくある草花ですが、ひとつひとつ愛らしく美しい存在です。ラ　コリーナで五感を使い自然の大切さを私たちと一緒に感じていただければ幸いです。

◆びわこ文化公園3館（滋賀県立美術館・滋賀県立図書館・滋賀県埋蔵文化財センター）連携共同事業

「講演会　ヒトと自然のかかわりから見た近江」　※事前申込不要／当日先着

日　時：2023年9月2日（土）　14時から（約90分）

講　師：堀　真人（滋賀県文化財保護協会）

会　場：滋賀県立美術館　木のホール

定　員：70名程度

内　容：ヒトと自然は、どのようにかかわりあってきたのでしょうか？
　　滋賀県文化財保護協会の堀真人氏をむかえ、近江と瀬田丘陵、そしてヒトの営みについてご講演いただきます。びわこ文化公園3館共同企画事業です。

６．館内販売書籍

◆展覧会図録

図録『今森光彦　里山 水の匂いのするところ』滋賀県立美術館監修

本展覧会の全出品作品を掲載。今森光彦氏へのインタビュー、今森氏の「里山」に関する寄稿論文、年譜などを収録し、今森氏の作品の魅力をさらに知ることのできる展覧会図録です。

◆今森光彦氏の写真集

写真集『スカラベ』

ファーブルが情熱を傾けて研究に没頭したことでも有名なスカラベ（ふんころがし）。

古代エジプトで太陽神として崇められるこの不思議な昆虫を、今森氏は延べ８年間以上に渡り徹底的に取材しました。名作写真集が装いを新たに、今夏、待望の復刊！

写真集『里山－人と自然がともに生きる－』

里山を見つめ続けて 50 年！これまでの代表的な作品を網羅した里山の決定版写真集です。

今森氏の言葉とともに、ゆるやかに四季を追いながら、未来に贈りたいこの美しい自然を再発見していただけます。今夏刊行、自然好きにおすすめ！

他にも関連書籍を多数取り揃えています！

７．同時期に開催される今森光彦氏の展覧会

「ジャン・アンリ・ファーブル生誕200年記念　今森光彦の地球昆虫紀行」展

富士フイルムフォトサロン 東京（フジフイルム スクエア内）

2023年7月28日（金）～8月24日（木）

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3

TEL 03-6271-3350（受付時間10：00-18：00）／ FAX 03-6271-3352

E-mail　square@fujifilm.com

８．同時期に開催する当館の展覧会（常設展）

展示室1：「湖国めぐる美術の旅」

2023年6月25日（日）～8月20日（日）

「春挙を知ろう」

2023年8月22日（火）～10月1日（日）

展示室2：「SMoA コレクション ―近現代美術1― 」

2023年6月25日（日）～10月1日（日）

小倉遊亀コーナー：

「物語を描く ―挿絵の仕事― 」

2023年6月25日（日）～10月1日（日）

９．次回開催予定の展覧会（企画展）

“みかた”の多い美術館

2023年10月7日（土）～11月19日（日）

10. プレス内覧会

（1）開催日時　2023年7月7日（金）13時～受付開始

（2）会　　場　滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町1740－1）

（3）タイムスケジュール

13：00～　　プレス受付開始

13：30～14：10　展覧会場内覧（展示室3、ラボ）

14：10～14：50　説明会（木のホール）

・保坂ディレクターによるご挨拶
・今森光彦氏スピーチ
・展覧会内容紹介（担当学芸員）
・質疑応答

14：50～　　自由取材

（4）参加申込み

参加を希望される方は、別添「プレス内覧会参加返信表」に必要事項を御記入の上、2023年7月6日（木）正午までに、FAXまたはメールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）を御利用ください。（機材の持ち込みなど美術館前まで車の乗り入れが必要な場合は、その旨を記載してください。）

（5）注意事項

天災地変等の突発的な事情により、プレス内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいた御連絡先にお知らせいたします。

プレス内覧会参加返信表

申込期限:7/6(木)正午

滋賀県立美術館行き

Fax　:077-543-2170
Email:museum@pref.shiga.lg.jp

＜必要事項＞

1)貴社名　：

2)御芳名　：

※参加される方すべての御芳名を記入してください。

3)参加人数:

4)ＴＥＬ　：

5)E-mail　：

6)通信欄　：

広報用画像申込書

滋賀県立美術館　学芸課行き

Fax：077-543-2170　　E-mail：info@shigamuseum.jp

展覧会広報用素材として、作品画像等を用意しております。御希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項を御記入のうえ、FAXまたはメールにてお申し込みください。

****

媒　体　名：

種　　別：テレビ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　その他

発売・放送予定日：

御　社　名：

御担当者名：

E－mail：

T　E　L：

招待券希望枚数：　　枚（送付先住所：　　）

御希望の画像に✔をつけてください。

□	①　今森光彦《船着き場の朝》2000 年
□	②　今森光彦《トチの実を拾う人》2002 年
□	③　今森光彦《おしょらいさん》1998 年
□	④　今森光彦《やまおやじ》1991 年
□	⑤　今森光彦《ヤマウルシの紅葉とオオカマキリの影》1985 年
□	⑥　今森光彦《比叡山の裾野に広がる田植えの頃の棚田》1989 年
□	⑦　今森光彦《朝焼けの棚田》1986 年
□	⑧　今森光彦《野菜を洗う人》1999 年
□	⑨　今森光彦《かばたの井戸》1998 年
□	⑩　今森光彦《朝焼けの比良山》1997 年
□	⑪　今森光彦《冬のヨシ原》1996 年
□	⑫　今森光彦《オナガガモの群れ》2002 年
□	⑬　今森光彦《光る湖面》2001 年

****

［使用条件］

※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションおよびクレジット（©Mitsuhiko Imamori）の明記が必要です。

※当館からの指定がない限り、トリミングは御遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトに御配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を負いかねます。

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。

※画像は本展の広報のみの御利用となります。御利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。

※読者プレゼント用の招待券の提供を御希望の場合は、本申込書の記載欄に御記入ください。